

<事業所自己評価>

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 生きがい十和田	事業所名	ナースケア24プラス
所在地	(〒 034 - 0005) 十和田市大字三本木字一本木沢 49-2		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 1 月 31 日	従業者等自己評価 実施人数	(8) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	-----------------

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
				自己評価	運営推進会議における意見等
Ⅰ. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		・職員間の情報共有はグループラインを活用しているが、個人情報を取り扱っている事を理解し特定されないような工夫が必要。例え: 名前の表記→鈴○美○様 ・新しい施設なので器具の取り扱い等災害時に対応できるようにマニュアルの周知をする。	・グループラインでの情報共有は簡潔な内容で行ってきた。また9月からは全職員へスマートフォンを配布し、セキュリティとプライバシー保護が強化されているラインワークスを取り入れ、情報共有を行った。 ・1週間に1回カンファレンス日を行った。 ・BCPについての概要を全職員に周知できた。 ・火災時における通報訓練を実施した。	・ラインワークス取り入れによりこれまで以上に看護・介護職間の認識の共有ができた。 ・カンファレンスを行うことにより業務の統一化が図られていた。 - また、事故の発生時の対策も検討されていた。 ・災害時の体制構築はBCPにおける連絡体制を整理し連絡訓練が出来た。次は役割分担により物資の確保について取り組んでいきたい。 ・分割した訓練は出来ているが、最終的には総合訓練ができることが理想である。	・1月1日災害が起きた事を想定しラインワークスの緊急連絡網を活用し一斉連絡をし、職員全員が連絡網を確認出来たかの確認を行った。具体的な訓練はまだ出来ていない。連絡網の確認。物品・備蓄と徐々に行っていく予定。
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・看護・介護職員の知識・技術向上のため、e-ラーニング活用し習得に取り組む。	・e-ラーニングを活用し全職員が研修に取り組む事ができた。 ・利用者様個々の状態に応じた24時間一体的なサービス提供が出来た。	e-ラーニングを活用したほうが負担なく研修ができたので今後も継続していく。	・e-ラーニングは、年間計画を立てて、法定研修を行っている。(初・中・上級)と段階を踏んで計画している。実施後は、確認テストを行っている。

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・入所時に終末期における医療処置についての意向確認を継続しつつ、その後は状況に合わせて随時確認をする。	医療機関との連携は、MCS のツールの活用が活発になり、より一層連携できた。	引き続き、MCS やラインワークスを活用し他機関・他業種との連携を図っていく。	インスタなどのSNSで活動をもっと他の人も見れ貰えるよう発信していった欲しい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・登録者の体に負担がかからないように配慮しながら、行事計画を継続し参加する。	・利用者の健康状態により行事に参加できなかった ・発行している新聞を2ヶ月毎に39町内に発信することができた。	来年度も地域行事への参加をし交流を図る。 発行している新聞を町内会の回覧板で回覧し情報発信を継続していく。	「かんたき便り」はいつも楽しみに拝見している。 地域行事の参加も継続していったほしい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・終末期における希望を、入所時意向も状況に合わせて随時確認する。	今年度お看取りのサポートをさせていただいた方は3名です。	終末期に関わらず、ご本人やご家族様のご希望が実現できるよう、意見交換をしながらサポートしていく。	家族の意向は毎回変わると思う。 意向確認は、タイミングが難しいと思うが上手くできていると思う。

※「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	・情報の共有は引き続きラインワークスを活用していくが、万が一の時に特定されにくいような工夫をしながら継続していく。 ・週1回のカンファレンス日を設け、現状を把握しながらその	個人情報外部に漏れないように情報共有を行っていく。

		時の状況にあった業務改善をしていく。 ・法人の基本理念の他に、事業所の理念を明確にし、各職員が共通の目標を持ちながら仕事に取り組めるようにしていく。	
Ⅱ. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・ e ラーニングでの研修は継続しながら、外部研修の参加率向上を目指し、参加できない職員へは、カンファレンスの時間を利用し、伝達研修を行っていく。	e ラーニングを活用し、負担なく研修を継続していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	・ 専門職種による機能訓練を継続し、利用者様へ最善のケアを提供していく。	機能訓練、多職種と連携を取りながら行っていく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	・ 地域行事への参加継続 (地域夏祭り等) ・ ナースケア新聞を町内会の回覧板で回覧は継続し、地域住民に豆知識など介護についての情報提供していく。	町内会行事の他に、慰問行事の参加や新聞に豆知識を載せていくことを行っていきたい。
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		・ 地域包括ケアシステムについて、職員と学ぶ機会を作り、理解を深める。	看護多機能の仕組みを職員全体が説明出来るかと言うとまだできる職員とできない職員 (新人職員)・特定技能の職員もいる為勉強しみんなで理解してサービス提供できたと思う。

※「改善計画 (案)」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
Ⅰ 事業運営の評価【適切な事業運営】							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	2	1	5	8		✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・日常より医療ニーズの高い利用者の在宅生活の支援が継続できるよう支援している ・家族や利用者の意向に合わせたケアを心掛けている。また、利用者様のADLが低下しないよう、利用者様に合わせたリハビリができるようにしている					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		3	5			✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・サービスの特徴を理解し、適宜訪問の見直しを行っている ・看護小規模多機能のシステムを理解し、利用者様へ対応するように心掛けている					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な		4	3		・忙しい中でカンファレンスの時間が取れているのは素	✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
	育成計画などを作成している	・目標について話し合いが出来ました ・カンファレンス等には参加出来ている ・人材育成評価表をスタッフの目に届く所へ置き確認出来る環境にしている				晴らしい。意見交換もできているようなので、是非継続して欲しい。	✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」

4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		3	2	3	・勤務中にeラーニング出来ていて素晴らしいと思う。このまま継続して下さい。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・内部研修・外部研修により、職員の専門技術の向上に向けている ・技術向上のために研修へ参加している ・毎月実施されている研修は受講出来ているがスキルアップのための外部研修に参加出来ない。積極的に研修に参加していきたい。					

② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	1	4	2	1	・忙しい中でカンファレンスの時間が取れているのは素晴らしい。意見交換もできているようなので、是非継続して欲しい。 ・コミュニケーションツールでグループラインやラインワークスを活用し、中にいても外にいても情報が迅速にとれているように思うため、継続して欲しい。	✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	1	1	2	4	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・運営推進会議の回覧が来ているには知っているが目を通すことが出来なかった ・得られた要望・助言があれば適宜サービス提供に反映されている ・掲示物・ラインワークスを確認して対応しています ・運営推進会議録を確認するようにしているが、ケアやサービス提供に繋がられてはいない	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							

7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		5	3			✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	2	5		グループラインやラインワークスを活用し、中にいても外にいても情報が迅速にとれているように思うため、継続して欲しい。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者		7	1		・忙しい中でカンファ	✓ 「各種の事故に対する予防・対

	等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・事故予防対策について話し合いが出来ている ・事故発生時の初度対応策を検討する機会を設けている ・転倒や誤薬等があった場合はカンファレンスを行い、対策を検討している。投薬時のダブルチェックを行っている				レンスの時間が取れているのは素晴らしい。意見交換もできているようなので、是非継続して欲しい。	策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます	
② 災害等の緊急時の体制の構築								
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1	2	4	1	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・BCPについての説明があり概要が理解できた ・避難訓練の実施を行っている。また、マニュアルを確認しているが実際に災害が起こった時のイメージが出来ていない	・ラインワークスを利用しているのは素晴らしい。今後も継続して欲しい。 ・BCPの訓練は、緊急時の連絡網を整備し、1度メールで連絡網確認訓練を実施している。	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
Ⅱ サービス提供等の評価								
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供								
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成								
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施								
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	1	1	3	3	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・在宅の家族等介護者の状況を考える必要がある ・家族の介護負担等に着目したアセスメントを実施している	✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の	

		・看護・介護・CMにより定期的に集まり話し合いが持たれている ・訪問時間に家族に状況を確認するように心掛けている。他スタッフとも情報共有していきたい					暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		4	3	1	[具体的な状況・取組内容] ・利用者様の担当者的会議等により両職種間で共有出来ている ・ラインワークスで共有出来ている	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	1	1	4	2	・本人・家族の思いをくみ取り、計画作成と修正をしているのはいいと思う。	✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます
		[具体的な状況・取組内容] ・計画の作成や評価に関わる機会がない ・評価表・計画書作成の基つき対応することが出来ています ・担当者的会議の記録を確認しケアを統一出来るように心掛けてはいるが、しっかりとフィードバックは出来ていないように感じる					
14	○ 利用者の有する能力を最大	1	1	5	1		✓ 「利用者の有する能力を活かし

	限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・計画の作成や評価に関わる機会がない ・利用者・家族の要望に合わせ食事・入浴・リハビリ等の対応出来ています ・自立支援を大切にした介護の実践をスタッフ間で認識し実践している ・リハビリを行っているものの、残存機能を活かしている内容ではない為検討していきたい				・OT・PTがいるので専門職種のリハビリ・リハビリの指導の様子もラインワークスで共有（動画も送り共有）している。	た、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます	
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成								
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		2	3	3	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・介護・看護による情報提供に伴い出来ている ・状況変化を予測し、早期の対応を心掛けている ・日々の業務で、一杯で利用者様1人1人に合わせた対応は十分ではない。都度話し合うように心掛けているがKYT（危険予知訓練）を進んで行っていきたい		✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践								
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映								
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		3	3	2	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族・利用者様の情報交換を行い、計画を立てることが出来ている ・利用者・家族の状況変化に合わせプラン変更が行われている ・マニュアルを確認、他スタッフへ確認をして	・状況変化した際、ラインワークスを利用して情報共有出来ているようなので、継続して欲しい。	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します

		いるが把握しきれていない所も多い					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	1	2	2	3	・通いの偏りを調整するのは難しいと思う。 家族や利用者様へのわかりやすい説明を心掛けてほしい。	✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		4	1	3	・ラインワークスに薬剤師さんを入れて情報共有できているのは素晴らしいと思う。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれ	1	3	3	1		✓ 「介護職と看護職の専門性を活

	の専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・看護師が介護の役割を担っていることも多いが介護師からの視点での意見ももらうこともある ・声掛けをしながら役割分担しています ・状況に合わせ業務分担し柔軟性を持った対応をしている					かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている	1	4	2	1	・コミュニケーションツールでグループラインやラインワークスを活用し、中にいても外にいても情報が迅速にとれているように思うため、継続して欲しい。	✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている	1	2	2	3	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・申し送り・ラインワークス等で情報共有を受けている ・心身の状態・情報を把握しながら対応行っています ・状態変化、ADL変化は都度共有しているが、	✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます

		今後も含めどのようなケアが必要なのか提案できればよかった					
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		3	1	4		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・パンフレットを使用し分かりやすい説明を心掛けている ・介入する際に話しかけながら説明を行っていると考える					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		3	1	4		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・計画の説明を行い、利用者の同意を得られている ・利用者の声を聞き家族様の考えを上手に伝えるようにする ・計画書の説明場面では計画書を読むだけのような気がする為、しっかりと説明できるようにしたい					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやす		3	2	3		✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・医療機器を説明できるくらい把握していない場合がある					

	く説明し、利用者等の理解を得ている	・携わる機会が少なかった ・必要時動画を見せたり、パンフレットを作成する等、理解を得られるように努めている		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有				
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	323 <u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・契約時や状態変化時等意向を確認してケアをしている ・ケアマネ・上司と相談しながら行っています ・本人の意見を確認しながら行っている		✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	224 <u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・リスクを予測し分かりやすい説明を心掛けている ・訪問する事により、家族との交流を深め利用者との相談をする事が出来ている		✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している	323 <u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・自分が得た情報は記録として残し、ラインワークスでの共有にも心掛けている ・携わる機会が少なかった ・急変時の病院受診、訪問診療により経		✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」

		過を丁寧に説明する事が出来ています ・家族の不安を軽減出来るよう状況報告を行い、記録に残している					
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		2	3	3	<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・利用者様・家族・CM・看護・介護を交えたカンファレンスへの参加情報の共有が出来ています ・携わる機会が少なかった ・情報収集の際、ケアの方向性など確認 円滑な在宅生活に移行を支援している ・担当者会議やサマリーを確認するようにしている	✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	1	2	5		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・訪問診療へ立ち会いする機会も増え、状態の報告し、指示を仰ぐようにしている。また、得た情報は日誌、ケース記録、ラインワークスにて共有している ・緊急時にすぐに看護師に相談しています ・急変時・主治医との連絡を取り病院受診出来ている	・ツールを使って上手く情報共有出来ているように思う。 ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

		・意向の確認し主治医と情報共有出来ている						
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築								
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	1	3	3		✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・マニュアルを確認したり、先輩へ確認したりしているが、即座に対応出来るかと問われると自信がない ・利用者・家族への連絡。主治医・待機の医師への連絡体制が整っています ・24時間連絡体制が整備されている						
(2) 多職種との連携体制の構築								
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討								
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	1		2	5		✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です	
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・包括的なケアができるよう、運営推進会議で意見を頂きケアに反映している ・携わる機会が少なかった ・情報提供や提案は行われているが参加した事がない						
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画								
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案								
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信								

32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見るような方法での情報発信が、迅速に行われている	1	1	2	4		✓ 「誰でも見るができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・ 回覧が来た際は目を通してしている ・ 運営推進会議の回覧が来ているのは知っているが見ることが出来ていませんでした ・ 会議録・ファイルを事務所に置き、誰でも見るができるようにしている					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		2	2	4		✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] ・ 2ヵ月に1回のナースケア新聞を町内会に配布している。Instagramやティックトックに配信している					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	1		1	6		✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく
		[具体的な状況・取組内容] ・ ショート利用者の訪問看護を行った					

						できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ						
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	2	3	2	[具体的な状況・取組内容] ・受け入れる体制は整っており、積極的に受け入れを行った ・吸引器のレンタルや家族の理解のもと購入により受け入れる事が出来ています
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	1	3	3	[具体的な状況・取組内容] ・体制は整っているが、人口呼吸器を必要とする利用者の利用はなかった ・人口呼吸器に関する研修に参加した
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	2	3	2	[具体的な状況・取組内容] ・体制が整っており、積極的に受け入れできた

						の視点から、充足度を評価します
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画						
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解						
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		1	2	5	✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開						
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		2	2	4	✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等						
40			2	1	5	✓ 「課題提起や改善策の提案等の

	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・運営推進会議の際必要時提案している ・取り組みをしたことがない					取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている			3	5	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・家族に対しての取り組みはしているが、近隣住民に対しては実施出来ていない ・取り組みをしたことがない	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・個々に合わせた、柔軟な対応が出来ている ・看護師さんに確認しながら援助を行っています ・計画書に基づき、職員の情報提供により評価することが出来ています		✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない		✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・状態変化時には家族へ連絡をし、24時間体制で対応することで安心感が得られているのではないかと ・達成されていると考える		ついて、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・訪問診療により、医師と家族の話し合いにより安心感が得られている ・携わる機会が少なかった ・達成されていると考える ・在宅での看取りが不安な時は、泊りを利用し看取りの支援等をし、安心感が得られていると思う		✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します ✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます ✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」